

## 北海道ユースプランナー意見交換会について（報告）

【日 時】 令和4年（2022年）12月26日（月）13:30～15:30

【場 所】 かでる2・7 750会議室（対面）／760会議室（オンライン）

【参 加】 ユースプランナー5大学7名（登録者数 11大学76名）

### 【内 容】

・当日の流れ

対面出席者とオンライン出席者に分けグループワークを実施

①全体説明（5分）⇒②グループワーク（75分）⇒③全体で共有（40分）

・グループワークのテーマ

「ユースプランナー制度の取組と今後の制度運営に向けて」

### 【意見交換結果】

検討項目	利点	現状の課題	今後のための意見
① アンケート  ※8月から12月まで毎月テーマ別にユースプランナーのみなさんに意見を募集していました。	アンケート様式が、細かい選択肢、自由記述のため、意見を伝えやすい。	ユースプランナー同士の意見交換の機会がない。	大学生は、Googleフォームの方が使い慣れているので、Googleフォームを使用してはどうか。
	ほかの学生の考え方が分かることが面白い。	道からのアンケート結果集計以外のフィードバックがない。	子ども子育て分野以外の内容についても知りたい。また、道が持っている統計等を情報発信してほしい。 (例：地域医療分野や介護の担い手の必要性等)
	単語しか知らなかった問題について、背景を知ることができたことがある。	アンケートの結果送付が分かりにくい。 (道のメールシステム上、添付ファイルを送付するときに自動的にzip形式となるが、スマホでは容易に解凍できない。)	—
	—	設問の意図が分かりにくい場合がある。 (例：「子どもの貧困」と関連するものを問う設問。)  回答率が低い。	

<p>② 拡散投稿</p> <p>※SNS（Twitter及びInstagram）で不定期に子ども子育て関連情報の拡散を行ってききました。</p>	-	投稿内容が行政文書のように面白くない。	イラストや漫画を交えるなど見た目を工夫すべきだ。
		写真だけでは拡散しようとは思わない。 （例：表彰式の写真のみの投稿）	内容をかみ砕いて率直に伝わるよう工夫すべきだ。
		頻度低い。	シリーズ化、キャッチフレーズを入れる等して、興味を持ってもらう工夫をすべきだ。 （例：○つのうわさ）
<p>③ ユースプランナー確保方法</p> <p>※次年度以降、ユースプランナーとなってくれる学生の募集方法を検討しています。</p>	-	-	<p>募集ポスター等を学生の目につく場所（構内掲示板等）に掲示する。</p> <p>友人間であればユースプランナー制度を周知することは可能である。ただし、最近は大学がサークルを縮小させており学生同士の集団が少ないのが、難点である。</p>
<p>④ 施策への反映方法</p> <p>※アンケート等でユースプランナーから出た意見を道政に反映できるよう検討しています。</p>	-	道からのフィードバックがない。	ユースプランナーの考えたアイデアを福祉の現場（児相や保健所等）に投げかけ、現場からのフィードバックが欲しい。
		道が現在行っている施策が分からない。	道が現在行っている事業を一覧表に示すなどして周知する。現状を伝えた上でユースプランナーの意見をもらうべきだ。
		-	<p>ユースプランナーから出た意見を施策に反映する方法を道から提案する。学生の反応によって、当該分野や提案した反映方法への関心度合いを確認することができる。</p> <p>施策に反映できたことをSNSで周知すれば、ユースプランナー事業の宣伝になる。</p>
<p>⑤ ユースプランナーに参加するメリット</p> <p>※ユースプランナーのみなさんに貴重な時間を使ってもらう代わりに提供できるメリットを検討しています。</p>	-	-	<p>児童福祉に興味のある学生もいる。実際の現場を見てみたい。 （例：児童相談所、自立支援施設、議会等）</p> <p>ユースプランナー同士が集まるイベントが必要だ。 （例：意見交換会及び見学会）</p> <p>道職員の顔、名前、経歴が分かると親近感が湧き、質問しやすい。</p>